NOK Company Information

NOK × MONO

系列や国を超えた供給体制と部品の共通化加速で、競争が激化。環境と燃費効率を考えた次世代自動車開発に注力する各社。

トヨタ系

デンソー
売上高／5兆1535億円（20・3連）
主要製品／熱機器、エンジン、電気機器等

アイシン精機
売上高／3兆7846億円（20・3連）
主要製品／ブレーキシステム、エンジン部品等

豊田自動織機
売上高／2兆1714億円（20・3連）
主要製品／エンジン、自動車用電子部品等

ジェイテクト
売上高／1兆4189億円（20・3連）
主要製品／自動車のステアリング、ベアリング等

トヨタ紡織
売上高／1兆3726億円（20・3連）
主要製品／シート、ドアトリム、フィルター、パワートレイン機器部品等

豊田合成
売上高／8129億円（20・3連）
主要製品／内装・外装部品（樹脂・ゴム製品等）、エアバッグモジュール、LED応用製品等

小糸製作所
売上高／8009億円（20・3連）
主要製品／LEDヘッドランプ、標識灯、フォグランプ等

東海理化電機製作所
売上高／5000億円（20・3連）
主要製品／各種スイッチ、電子キーシステム、シートベルト等

日産系

ジヤトコ
売上高／6492億円（20・3連）
主要製品／AT・CVTのパワートレイン等

愛知機械工業
売上高／1017億円（20・3）
主要製品／小型エンジン、トランスミッション等

鬼怒川ゴム工業
売上高／281億円（20・3）
主要製品／ウィンドウ周りの部品、窓枠、フードシール等

外資系

ロバート・ボッシュ
売上高／777億ユーロ（19・12連）

子会社

ボッシュ
売上高／3340億円（19・12連）
主要製品／エンジンマネージメントシステム等

コンチネンタル
売上高／445億ユーロ（19・12連）
主要製品／タイヤ、ブレーキ装置、車両システム等

グループ会社（日本法人）

コンチネンタル・オートモーティブ
売上高／非公開
主要製品／ブレーキシステム、センサー等

マーレフィルターシステムズ
売上高／347億円（19・12）
主要製品／フィルタ、潤滑製品等

マーレエンジンコンポーネンツジャパン
売上高／202億円（19・12）
主要製品／ピストン、シリンダライナ等

ヒュンダイモービス
売上高／38兆488億ウォン（19・12連）

ZFグループ
売上高／365億ユーロ（19・12連）

グループ会社

マーレ
売上高／120億ユーロ（19・12連）

マグナインターナショナル
売上高／394億ドル（19・12連）

ジョンソンコントロールズ
売上高／304億ドル（19・9連）

フォルシア
売上高／非公開

ホンダ系

テイ・エス テック
売上高／3597億円（20・3連）
主要製品／四輪車シート、二輪車シート、ドアトリム、ルーフトリム等

ジーテクト
売上高／2283億円（20・3連）
主要製品／車体骨格部品製造等

エフテック
売上高／2187億円（20・3連）
主要製品／シャーシシステム、マウント部品、モジュールの設計、製造等

ユタカ技研
売上高／1634億円（20・3連）
主要製品／トルクコンバータ、排気系システム等

八千代工業
売上高／1546億円（20・3連）
主要製品／燃料タンク、サンルーフ、各種補修部品等

山田製作所
売上高／787億円（20・3連）
主要製品／オイルポンプ、ウォーターポンプ等

独立系

矢崎総業
売上高／1兆9454億円（19・6連）
主要製品／ワイヤーハーネス、メーター等

日本精工
売上高／8310億円（20・3連）
主要製品／ベアリング、電動パワーステアリング等

日立オートモティブシステムズ
売上高／8116億円（20・3連）
主要製品／衝突回避システム、ステアリング等

日本発条
売上高／6645億円（20・3連）
主要製品／コイルばね、バルブスプリング等

NTN
売上高／6515億円（20・3連）
主要製品／ベアリング、等速ジョイント等

NOK
売上高／6268億円（20・3連）
主要製品／オイルシール、パッキン等

住友電装
売上高／5703億円（20・3）
主要製品／ワイヤーハーネス等

三井金属鉱業
売上高／4731億円（20・3連）
主要製品／ドアロック等

スタンレー電気
売上高／3916億円（20・3連）
主要製品／ヘッドランプ、リアコンビネーションランプ、カーエレクトロニクス製品等

KYB
売上高／3816億円（20・3連）
主要製品／ショックアブソーバー等

ユニプレス
売上高／2957億円（20・3連）
主要製品／車体骨格、トランスミッション等

ニフコ
売上高／2880億円（20・3連）
主要製品／工業用ファスナー、ダンパー、バックル等

マレリ
売上高／2172億円（19・12連）
主要製品／メーター、モジュール、エアコン、ラジエータ、マフラー等

プレス工業
売上高／2053億円（20・3連）
主要製品／フレーム、アクスルハウジング、アクスルユニット等

曙ブレーキ工業
売上高／1933億円（20・3連）
主要製品／ディスクブレーキ、ドラムブレーキ等

キーワード

モジュール化

これまで自動車部品は、完成車メーカーの車種や地域ごとなどによって、専用に開発・設計、生産するのが一般的で、系列がはっきりしていた。しかし、ここ数年複数の車種で共用できる部品の開発が主になってきており、車種間の基本部品・ユニットを共用化するモジュール化が主流となってきている。それによって、コストダウンを図ることが大きな目的だ。また、モジュール化することで、部品設計の効率化が可能となり、効率化した分を電動自動車（EV）などの次世代自動車や未来に向けた技術開発に注力している。

トピックス

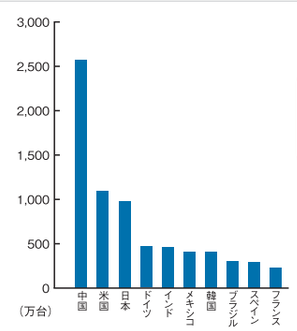
変革期を迎えている自動車業界

世界的にEV（電気自動車）の販売が急激に伸びており、LMCオートモーティブ（英）は、2030年の世界EV新車販売台数は1500万台を超えると予測している。そうした中、日産は2019年7月に10年ぶりとなるEVの新車を発表。各社がEVへと大きくシフトしている。また、販売に関しても大きく変化しており、各社が定額払いでクルマに乗れる「サブスクリプション」サービスを拡大している。日本の産業の屋台骨を支える自動車産業が、時代の変化とともに、大きな変革期を迎えている。

トピックス

脱・完成車メーカー系列

日本の自動車製造を支えてきた自動車部品メーカーの大きな特徴として完成車メーカーの系列がある。完成車メーカーと一体になって成長してきたが、新興国市場での低価格化や生産拠点の海外移管が進み、完成車メーカーは系列に縛られず、国内外の部品メーカーを選ぶようになった。
自動車部品メーカーも系列以外の国内メーカーや、海外メーカーからの受注を確保する動きが活発になっており、業界全体に系列解体の流れが強まっている。



世界自動車生産台数上位10カ国

出所：FOURIN
世界自動車月報2019年6月号

トピックス

CASEの未来を支える電子部品

自動車の電動化や自動運転技術の進展が予測される中、電子部品各社はCASEをキーワードに、自動運転や電動化に向けた車載用電子部品の技術開発を活発化させている。ADAS（先進運転支援システム）／自動運転のためのセンサや通信系デバイス、撮像系デバイス、EV／PHV向けパワーデバイスなどで高い成長を示している。今後は車載5G関連需要も拡大していくと見られる。
※CASE：「Connected（つながる車）」「Autonomous（自動運転）」「Shared & Services（シェア／サービス化）」「Electric（電気自動車）」の頭文字をとった造語。

Information

NOK株式会社

1941年に創業したNOKは、自動車部品や電子部品などを製造・販売する総合部品メーカー。独立系の強みを生かし国内自動車メーカーすべてと取引。高度なシール技術でを支えています。

写真：「東京モーターショー2019」に出展

Company View Point

こんにちは、ＮＯＫです。

あなたが普段、私たちを目にすることは、ほとんどないかもしれないけど。ＮＯＫの製品は、世の中の様々なものの中に入っています。

例えば、自動車や電車、航空機、船舶、ロケットなどに使われているシール（密封部品）。主力製品であるオイルシールは、世界一のシェアです。また、スマートフォンやテレビ、デジタルカメラなどに欠かせないＦＰＣ（回路基板）も、世界トップクラス。みんなの暮らしの安全や便利をささえています。

その技術力の源泉は、どこか家庭的な社風にある。年齢や肩書き関係なく、何でも言い合えるし、若いうちから、大きな仕事を任される。だから、のびのび働ける。どんどん成長できる。

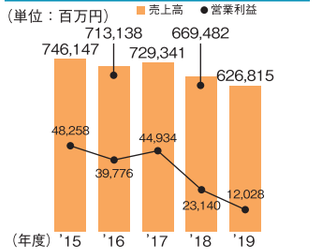
何よりも、人を大切にする会社です。
だって、技術は、人から生まれるものだから。

世の中に、なくてはならない存在でありたい。
私たちは、今日もひそかに頑張っています。

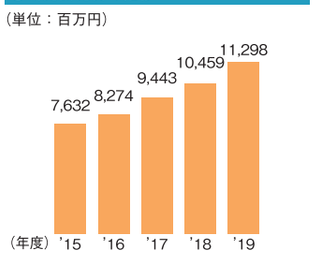
世の中を動かす、中の人です。

図で見る 企業DATA

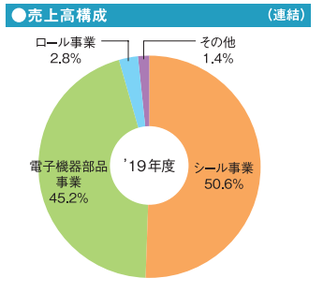
●売上高／営業利益の推移 （連結）



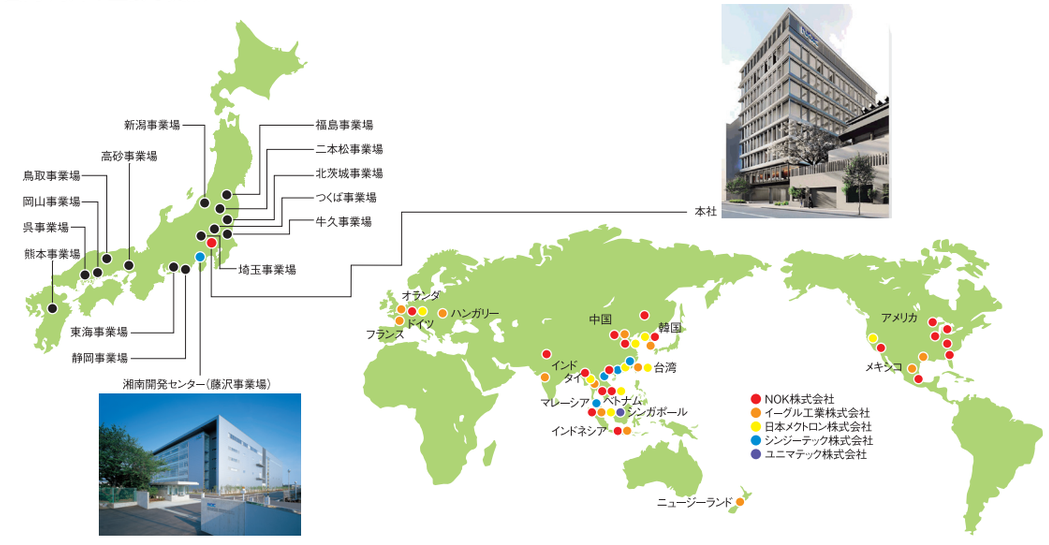
●研究開発費の推移



●売上高構成 （連結）



国内・海外の主要な拠点



これまでの事業展開

他社に先駆けてグローバルに展開

NOKは国内初のオイルシールメーカーとして1939年に設立。転機となったのは1960年。西ドイツ（当時）のカール・フロイデンベルグ社と技術提携し、高品質なオイルシールの安定量産体勢を築きあげたことが飛躍の原動力となった。以来、豊かな技術力を背景に付加価値の高いシール製品を世に送り出し、他の追随を許さないナンバーワン企業としての地位を確立していく。
まだ日本の自動車メーカーが1社しか進出していなかった1979年に早くもアメリカに生産工場を置くなど、海外にも積極的に展開。現在ではアメリカ・ヨーロッパ・アジア・中南米など、海外拠点数は約70か所にのぼり、世界中のお客様のニーズに応じた安定供給体制を構築している。
また固有技術に根差した経営の多角化も積極的に推進し、より一層の経営安定化を図っている。例えば、自動車、船舶、航空機などに使用するメカニカルシール、電子機器の小型軽量化・高性能化に寄与し、さらなる電子化が進む自動車にも搭載されているフレキシブルサーキット（FPC）など、幅広い分野に活躍のフィールドを広げている。シール技術、FPC技術、ロール技術などの基盤技術を基に、次世代を見つめた新たなテクノロジーを組み込んだ技術開発を続けていくとともに、技術に裏打ちされた独自性に富んだ部品メーカーを目指す。

▼オイルシール

技術力と製品・サービス

多彩な製品を送り出す事業領域

◆シール事業
合成ゴムや金属を主体とした機能部品（オイルシール、Oリング、メカニカルシールなど）を生産している。高度な合成ゴム加工技術、シール技術、動力伝達技術、バルブ技術などから生み出される製品は、自動車や機械はもちろん、ロケットエンジン、原子力発電プラントまで、幅広い領域で活躍する製品を提供している。

◆電子機器部品事業
1969年より電子部品事業を開始。以来、開発、設計、材料生産、製品生産までを一貫して行える体制で、フレキシブルサーキット等を世に送り出し、進化の速いデジタル機器の小型化、高性能化に貢献している。

◆ロール事業
複写機をはじめとする、事務機器で使用されるロール製品全般を製造。OA機器の心臓部を支える高機能ロールは、繊維、オーディオ、金融端末の各種業界にも貢献。NOKの基盤技術との融合により更なる高みを目指す。

◆特殊潤滑剤事業
潤滑剤は消耗品ではなく、重要な機能部品という理念のもと、超高温、極低温、高速、高荷重といった過酷な条件でも使用可能な製品を製造。未来のエネルギーを担う風力発電設備や水素ステーションで使用する潤滑剤なども開発しており、安心や信頼を提供している。

◆化学合成品事業
シール製品用の特殊合成ゴム、フッ素化学合成品など独創性の高い技術を活かした新製品開発をしており、自動車や工業用品からファッションまでの様々な分野で使用されている。

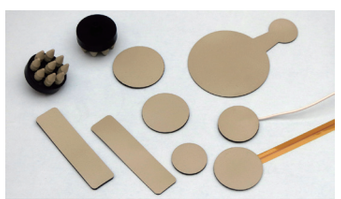
マーケットとこれからの展望

独自の技術で無くてはならない存在であり続ける

NOKでは、10年先、20年先の市場トレンドを見据えた新商品開発に取り組んでいる。特に「次世代自動車、環境・エネルギー、快適、健康」の4つをキーワードとし、それぞれの市場ニーズに対し、基盤技術を活用した多種多様な新製品・新技術の開発を行っている。そして、持続可能な開発目標（SDGs）の実現へと、これからも挑戦し続ける。

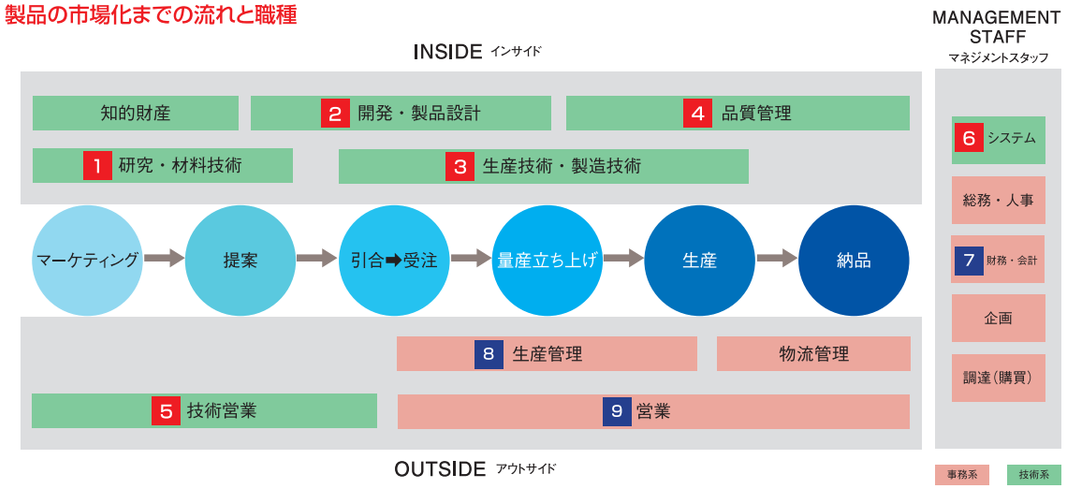
◆次世代自動車向け
低炭素社会の実現に向け、次世代自動車の普及が進んでいる。当社では、低摩擦損失による省エネルギー効果に寄与する製品や、電気自動車（EV）に求められている静粛性・腐食対策・低電費などに貢献する製品、そして燃料電池自動車（FCV）向けの加湿膜ユニットや高圧シールの技術開発を進めている。また、自動運転支援システム（ADAS）において、運転者の状態を判断する「ドライバモニタリング」も必要とされており、当社が世界で初めて開発した生体信号を測定できるゴム電極は、心電、筋電位、脳波等のモニタリングが可能であり、運転者の疲労や眠気の検知への利用が期待されている。

◆ロボット産業向け
注目されているのは、自然災害での人命救助、少子高齢化に伴う介護現場の人材不足を解決するロボット。当社ではロボットが人に触れたときに違和感を感じさせない、人肌に近い硬さ・弾力性を持たせた、人体に害のない材料（多層ウレタン材）を開発し、新たな需要に応えていく。



※生体信号用ゴム電極（さまざまな形状に成形可能）

製品の市場化までの流れと職種



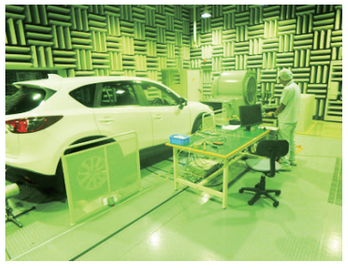
1 研究・材料技術

長期的視野に基づき、NOKグループ固有のコア技術(密封、摩擦・摩耗、振動・騒音など)の基盤技術研究、製品の新しい評価技術・解析法の開発を行う。

ゴム・プラスチックなどの高分子・金属分野での新材料開発・加工技術の開発、接着剤の新規開発と改良、材料の評価など開発時に必要な分析技術や材料の加工性に関わる技術の構築を行う。使用する場所や用途によって、異なる要求特性を最大限発揮させることを目的とする。

2 開発・製品設計

NOK生産品目(オイルシールなどのシール、工業用機能ゴム製品、防振ゴムなど)、及びグループ企業の生産品目(メカニカルシール、フレキシブルプリント配線基板など)の設計及び実験・解析を担う。また、新商品や新規の製法による商品の試作、及び初期の量産を通じて、生産体制、品質管理体制の構築と収益性検討を行う。



3 生産技術・製造技術

生産ラインの企画及び設備の設計・製作、モノづくりに関わる共通技術の開発、新生産方式・新加工技術開発等の業務を行う。また、金型に関わる基礎技術、溶接、切削加工などの金属加工技術、製造情報システムなどの開発業務を行う。「自己完結型」の開発を要として、高品質で高性能な製品づくりのための各種成形技術とゴム加工特性評価技術を駆使して、最適工法や工程の技術開発を行いながら、グローバルでの安定した品質を築く。

4 品質管理

品質管理全般に伴う企画・管理を行う。生産品目の品質維持・向上の統計的管理はもとより、不具合の未然防止や発生時の対策を講じるのも大きな役割となっている。また、企業活動に伴う地球温暖化の防止、化学物質の管理など、国内外NOKグループの環境保全活動の企画・調整推進及び環境マネジメントシステムの維持・改善に関する業務も行う。

5 技術営業

自動車・一般産業機械・電子業界など各業界の得意先へ商品の拡販をし、新規受注の獲得を行う。特に技術営業は、お客様(主に設計部門)に対して、より専門的な技術面での開発サポート、自社製品のPR活動、コーディネート業務がメインの業務となる。製品知識は当然ながら、材料や製造工程など幅広い知識が求められ、商品の開発から製造までのプロデュースを行う。

6 システム

NOKグループのITガバナンスの維持（IT標準制定 ・ 改定）や社内ITインフラ（ネットワーク、サーバー、IT機器）の企画 ・ 導入 ・ 運用管理、ITリスク管理、生産システム ・ 業務システム ・ システム連携の企画、設計、開発、運用保全を行う。また、海外拠点を含む連結各社の業務システムの開発や支援なども行う。

7 財務・会計

利益計画の立案、予算の管理、決算（単独・連結）及び税務に関する業務。また、現預金・手形 ・ 支払債務の管理、資金調達やグループ内資金の効率運用の企画 ・ 立案、社内外の会計監査 ・ 調査などを行う。

8 生産管理

生産部門(工場)での新規・既製品の工期立案・進捗管理、生産計画立案、実績集計、出荷管理を行う。また、設備投資の予算管理、原価 ・ 損益計画などの企画 ・ 調整を行う。

9 営業

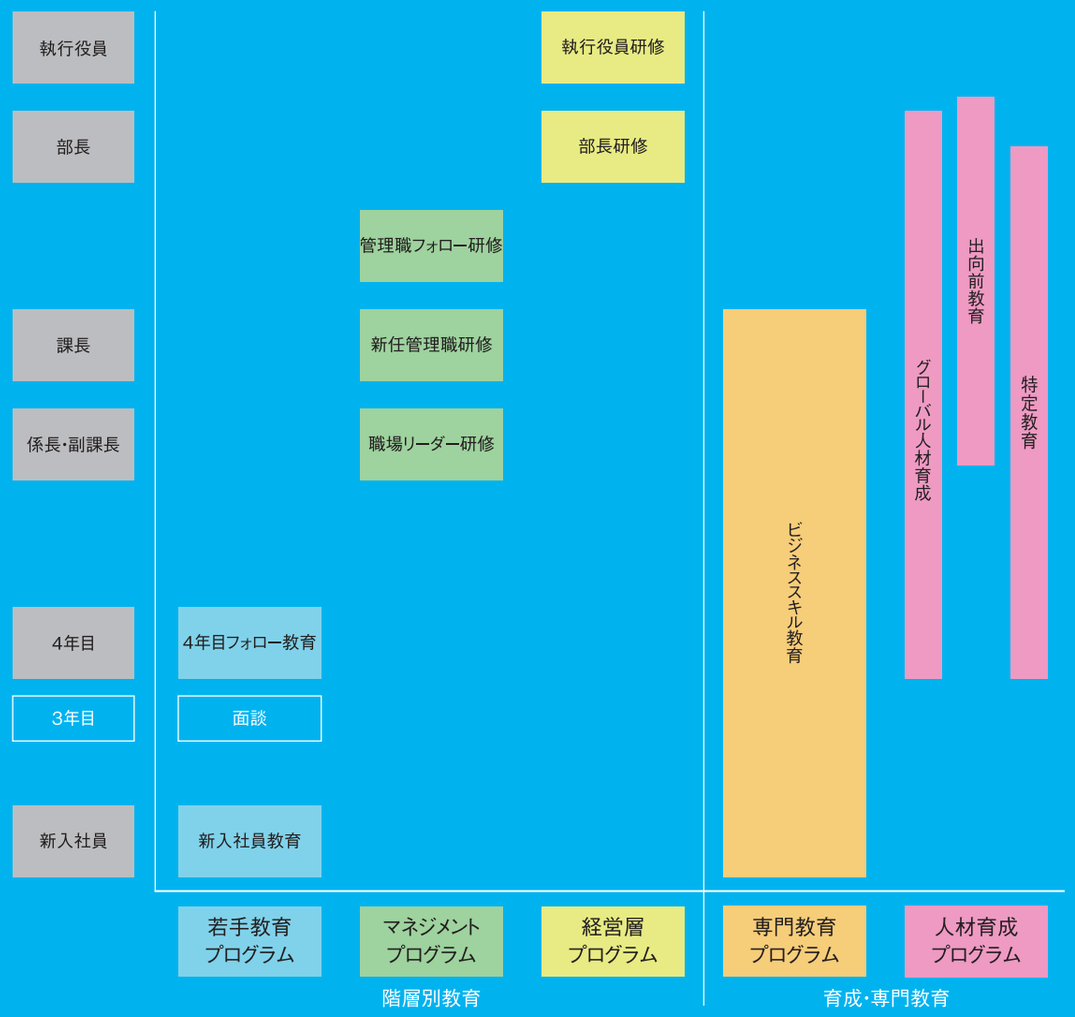
NOKグループ製品全般についての対外的窓口業務。受注獲得後は生産部門(工場)と連携をとり、量産立ち上げに向けての調整や製品の適正売価の設定等を行う。また、販売した製品について売掛金の管理及び回収を行う。

MEMO

人材育成・教育

NOKでは「職場が人を育て、人が職場を育てる」という理念に基づき、以下の様な人材育成プログラムを持っている。
「仕事に誇りを持ち、互いを尊重し合う人材の育成」をビジョンとして社員の成長を支援している。

◆人材育成プログラム◆



主な職種と専攻

専攻と職種 ／ 職種	数学	物理学	天文・惑星科学	化学	生物学	材料工学	プロセス工学	応用物理学	機械工学	電機電子工学	航空・海洋工学	資源工学	エネルギー工学	情報学	神経・人間工学	環境・社会科学	土木工学	建築学	農学	医歯薬学	理系その他	文系
研究・材料技術	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●							●	
開発・製品設計	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					●	
生産技術	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●							●	
品質管理	●	●		●		●	●	●	●							●					●	
技術営業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
システム	●	●						●		●				●							●	●
事務職（営業、生産管理 他）																						●

会社概要

設　　立	1939年12月
資 本 金	233億3,500万円
代 表 者	代表取締役社長　土居　清志
上　　場	東証一部
売 上 高	（連結）6,268億円（単体）2,391億円　※2019年度
従業員数	（連結）40,492名（単体）3,529名　※2020年3月末現在

〒105-8585　東京都港区芝大門1-12-15
NOK株式会社　人材企画部
TEL 03-3434-1739
E-mail saiyou@po.nok.co.jp
URL https://www.nok.co.jp

採用HP ↓